

北東アジアにおける中国辺境(国境)都市の経済的役割

— 貿易データによる分析を中心に —

The Role of Chinese Border Cities in Northeast Asia

: Focusing on the analysis based on trade data

安田知絵

Tomoe Yasuda

日本大学

Nihon University

キーワード: 図們江地域, 相互隣接, 辺境都市, 中継貿易

1 はじめに

経済のグローバル化に伴い、1つの国・地域が発展するためには「自力更生」¹は難しく、国境を跨ぐ地域開発の重要性は高まっている。例えば、アジア地域を代表する国境を跨ぐ地域開発の試みとして、北東アジアにおける図們江地域開発や、中央アジアにおける上海協力機構、東南アジアにおけるメコン地域開発があげられる。本研究では、国境を跨ぐ地域開発の一つである広域図們江地域開発 (GTI) に焦点を当て、当該地域における中国辺境 (国境) 都市の経済的役割を、貿易データによる分析を通じて明らかにすることを目的としている。

本研究と関連して、安田 (2016)、安田 (2020) では、貿易データによる分析を通じて、中国の国内地域と東北地域、そして海外との経済的連携の実態を明らかにしてきた。しかし、東北地域の省レベルを対象としていたため、その省内における域内貿易の可能性が排除されていない限界がある。そこで、本研究では従来の分析モデル²を基礎としながら都市レベルの分析を試みる。

本稿は次の構成で進められる。次節では、今回の研究対象としている地理的範囲と関連国・地域の相互隣接関係について確認し、北東アジアにおける辺境都市の「通路」としての重要性について触れる。第3節では、「国内—辺境都市—海外」という概念モデルを用いて、貿易データによる分析から辺境都市の役割を明らかにする。第4節はむすびとし、今後の課題について触れることとする。

2 辺境都市が持つ意味

2.1 地理的範囲

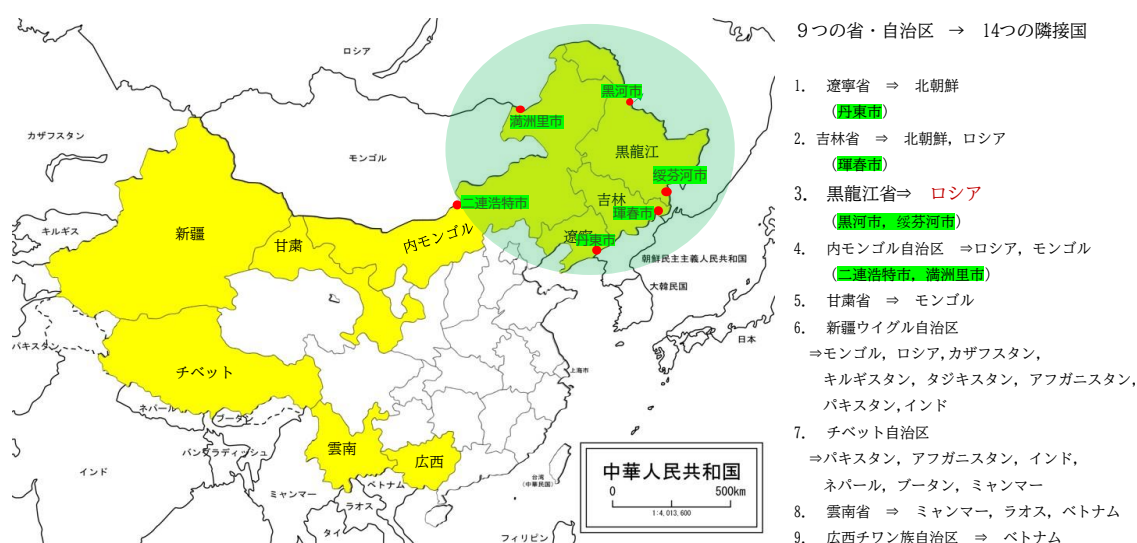
本研究での北東アジアは中国、モンゴル、ロシア、北朝鮮、韓国、日本を指しており、狭

1 他国の援助に頼らず、自国の中で解決することを意味する。

2 安田 (2016) p. 118 分析手法の説明はこちらを参照されたい。

義には中国の東北地域（遼寧省、吉林省、黒龍江省、内モンゴル自治区）のみ含めている。そして、分析対象となるのは、中国東北地域の国境線付近に位置する丹東市（遼寧省）、琿春市（吉林省）、綏芬河市と黒河市（黒龍江省）、二連浩特市と満洲里市（内モンゴル）である（図1を参照）。

図1 地理的範囲:6つの辺境都市



地図の元：白地図専門 (<https://www.freemap.jp/>) をもとに筆者作成。アクセス日：2023. 7. 9

東北地域の辺境都市のうち、丹東市は北朝鮮、琿春市は北朝鮮とロシア、綏芬河市と黒河市、そして満洲里市はロシア、そして二連浩特市はモンゴルと国境を接しており、1992年に辺境開放都市として指定された。さらに、2015年の「国发〔2015〕72号」では、沿辺（辺境）重点地域として、当該6つの辺境都市のうち、重点開発開放試験区として二連浩特市と満洲里市、国家級鉄路口岸（陸路通商口）として黒河市を除く5つの都市、全国17カ所にある辺境経済合作区に6つの辺境都市が含まれた³。このことは、今後において、当該地域を巡る開発がより進めるものとみられる。

本研究では当該都市を中心に「国内—辺境都市—海外」という概念モデルを用いて、分析をすすめる。ここでの「国内」は中国のその他国内地域を指し、「海外」は隣接する地域及びその他国を指す。また、発展度合いではなく、地理的概念を用いて「国内—辺境都市—海外」に分けて使用していることに注意されたい⁴。

3 国发〔2015〕72号「国务院关于支持沿边重点地区开发开放若干政策措施的意见」2016.1月7日公布 (https://www.gov.cn/zhengce/content/2016-01/07/content_10561.htm) アクセス日：2023年7月12日。

4 これらの概念の元は、岡本（2012）による「海外>中核>周辺」で、中国全土を対象とし、発展の度合いをもって地理的不均一を示したのである。彼の研究では「中国の経済活動の凸凹を示す概念」として使われていた。

2.2 北東アジアの国・地域の相互隣接関係

まず、ランドロックである国・地域はモンゴル、内モンゴル、黒龍江省、吉林省であるのに対し、日本は島国であり、韓国の場合は北朝鮮と隣接しているとはいえ、現状では陸上からその他国・地域へのアクセスができないため事実上は島国と同義である。こうした状況のなかで、海に面していない国・地域が海洋へのアクセスを果たすためには、それぞれの中継地域と接続する必要性が出てくる。例えば、モンゴルの場合はロシアまたは東北地域を経由して初めて海洋へのアクセスが可能になるのである。また、吉林省、黒龍江省、内モンゴルのような内陸地域は、ロシア、北朝鮮の港を経由し中国南方へ、または日本および韓国へのアクセスが可能になる。そのため、内陸国・地域が海への出口を確保するためには、陸上での隣接性をいかしたインフラ施設を共同で発展させる必要があり、拡充の余地も大きいものと見られる。

こうした一連の隣接性から考えても国境付近の玄関口、いわゆる北東アジア国・地域における重要な「通路」である辺境都市の経済的役割をはかることは意義があると考えられる。次節では貿易データによる分析を試みる。

表1 北東アジアの国・地域の相互隣接関係

		陸上での隣接性									
		遼寧省	吉林省	黒龍江省	内モンゴル	北朝鮮	ロシア	モンゴル	韓国	日本	海洋
接続性の有無	遼寧省		✓	×	×	✓	×	×	×	×	✓
	吉林省	✓		✓	✓	✓	✓	×	×	×	×
	黒龍江省	×	×		✓	×	✓	×	×	×	×
	内モンゴル	✓	✓	✓		×	✓	✓	×	×	×
	北朝鮮	✓	✓	×	×		✓	×	✓	×	✓
	ロシア	×	✓	✓	✓	✓		✓	×	×	✓
	モンゴル	×	×	×	✓	×	✓		×	×	×
	韓国	×	×	×	×	-	×	×		×	✓
	日本	×	×	×	×	×	×	×	×		✓
	海洋	✓	×	×	×	✓	✓	×	✓	✓	

出所：河合（2018）p.291 をもとに地域レベルで加筆修正

注：✓隣接/アクセス可能，×非隣接/アクセス不可，- 隣接されていてもアクセス不可

3.中国辺境都市の経済的役割

3.1 データの説明

ここでは、辺境都市を中心とした「国内—辺境都市—海外」との経済的連携を反映するための実証分析を試みる。まず中国海関総署⁵が公表している2種類の貿易データを用いて貿易中継額を計算し、その結果である（+）・（-）が持つ意味について解説する。分析期間は2014年6月から2023年4月⁶までで、分析対象は中国東北地域の4つの省・自治区、および6つの辺境都市になる。具体的な分析手法は安田（2016）、安田（2020）を参照されたい。

5 中国海関総署（<http://www.customs.gov.cn/customs/syx/index.html>）データアクセス日：2023年6月30日。

6 中国海関総署から取れるデータは2014年6月から2023年4月（現在）までとなっており、なるべく長い期間でその変化を確認すべく、当該期間とした。

表2 中継貿易額の分析結果が持つ意味

結果	符号	意味
中継輸入額	+	中継輸入
中継輸出額	+	中継輸出
中継輸入額	-	消費拠点
中継輸出額	-	製造拠点

まず、中継輸入額の分析結果の意味について確認を行う。中継輸入額が（+）となる場合は、最終消費地（国内からその他地域）への再輸出額が（中継輸入額）多いことを示し、輸入中継地としての役割を果たすとみることができる。一方、（-）となる場合は、当該地域で消費される製品の輸入額が多いことを示すため、消費拠点とみることができる。また、中継輸出額の分析結果が（+）となる場合は、その他地域からの再輸出額（中継輸出額）が多いことを示し、当該地域は輸出中継地としての役割を果たすとみることができる。他方、（-）となる場合は、当該地域で生産される部品（原産地）のほうが多く輸出されることを示すため、当該地域は製造拠点であるとみることができる⁷。

3.2 分析結果

ここでは、2014年から2022年までの期間を年別に、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大期を考慮し、2019年から2023年4月までの期間を月別に分析し、その結果を示す。

(1) 2014年から2022年までの期間

2014年から2022年までの東北地域および各辺境都市の輸出入中継額の推移をみると、次のような三つの特徴が確認された（表3と表4を参照）。

まず、中継輸出拠点から製造拠点へと変化したのは、省レベルからすと遼寧省（2017年以降）と黒龍江省（2017年以降）、内モンゴル（2015年以降）で、都市レベルでは内モンゴルの二連浩特市が2019年以降から消費拠点へと変化したことが確認された。次に、中継輸入拠点から消費拠点へと変化では、吉林省（2019年と2022年を除く）と内モンゴル（2016年以降）、都市レベルでは遼寧省の琿春市（2017年より）と内モンゴルの二連浩特市（2018年、2021年、2022年）であった。最後に、黒龍江省の綏芬河市と黒河市が全期間において（+）となっており、貿易中継地として、黒龍江省全体が輸入中継地として、内モンゴルの満洲里市が輸出中継地としての役割をそれぞれ果たしていることが明らかとなった。

これらの結果は、年によって多少の変化がみられるものの、中国と辺境地域、そしてその隣接諸国の市場と経済的に密接にリンクしていることを表している。他方、新型コロナウイルスが世界の貿易環境を大きく変えている「現在」において、世界的なパンデミックが生じた際に国境都市の経済的役割変化を捉えるには、月別の分析が欠かせないと考えられる。

⁷ 安田（2020）、p. 109.

表3 遼寧省と吉林省輸出入中継額の推移

単位：千ドル	遼寧省		丹東市		吉林省		琿春市	
	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入
2014年	8,407,776	-9,031,862	-53,670	-293,907	126,827	1,591,406	-54,206	55,085
2015年	4,462,374	-5,554,945	-199,553	-150,539	-330,090	987,127	-187,048	172,937
2016年	2,227,947	-2,060,236	170,911	45,948	-184,358	1,151,023	-96,807	60,911
2017年	-4,545,342	-8,249,614	-442,855	-358,779	-860,309	-402,686	-243,094	-73,074
2018年	-9,249,402	-10,238,967	-481,163	-280,215	-647,198	-211,601	-164,423	-50,523
2019年	-10,349,378	-18,292,996	-559,128	-268,039	-574,705	236,516	-225,361	-148,771
2020年	-7,700,819	-15,385,499	-568,456	-237,067	-455,093	-532,126	-42,986	-249,563
2021年	-8,489,079	-24,020,738	-393,591	-808,509	-376,596	-762,068	-46,252	-210,664
2022年	-10,794,516	-28,355,667	-222,688	-634,821	-463,737	770,911	-18,301	-436,325

出所：分析結果をもとに作成

表4 黒龍江省と内モンゴルの輸出入中継額

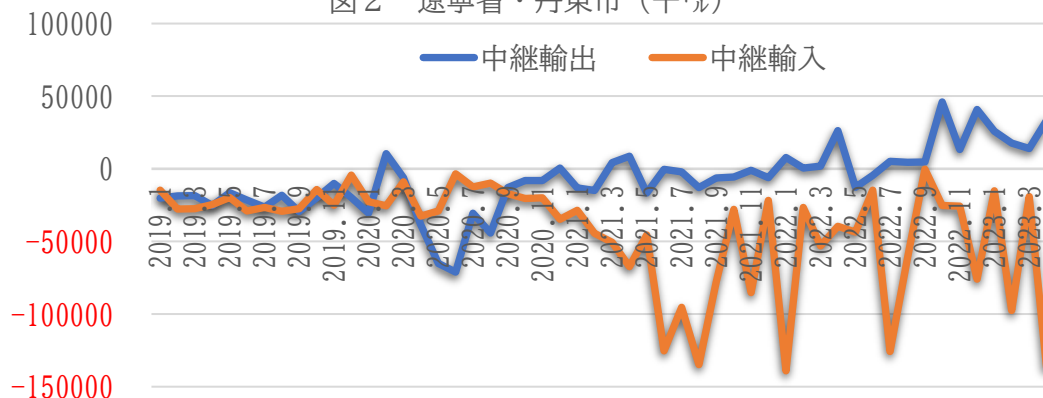
単位：千ドル	黒龍江省		綏芬河市		黒河市		内モンゴル		満洲里		二連浩特市	
	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入	中継輸出	中継輸入
2014年	6,184,497	5,538,780	1,973,566	3,486,943	1,469,857	4,295	800,145	181,628	1,213,339	224,679	87,556	279,814
2015年	2,201,918	3,720,333	507,212	1,746,639	441,793	51,614	-68,480	35,749	913,053	170,160	40,620	48,734
2016年	608,658	3,329,057	260,272	1,544,338	251,117	29,343	-387,135	-23,954	505,589	181,663	43,194	7,946
2017年	-150,001	2,253,077	373,110	664,479	120,443	31,164	-885,584	-1,079,650	405,045	-43,683	38,199	419,470
2018年	-363,770	3,056,327	282,229	396,066	96,604	74,966	-1,732,088	-2,429,834	306,960	-147,554	28,051	-104,417
2019年	-558,931	2,782,519	213,564	673,855	50,039	54,769	-1,908,703	-2,289,983	228,372	-115,621	-89,429	75,680
2020年	-218,739	1,936,914	328,814	433,335	54,895	76,114	-1,481,823	-3,580,210	238,010	-357,415	-152,924	287,838
2021年	-758,510	2,836,221	505,488	727,273	88,429	60,014	-2,305,419	-7,320,794	351,877	-384,964	-133,301	-143,196
2022年	-144,969	5,215,211	895,687	605,470	290,089	107,336	-2,640,472	-7,497,935	560,942	-778,762	-140,067	-201,021

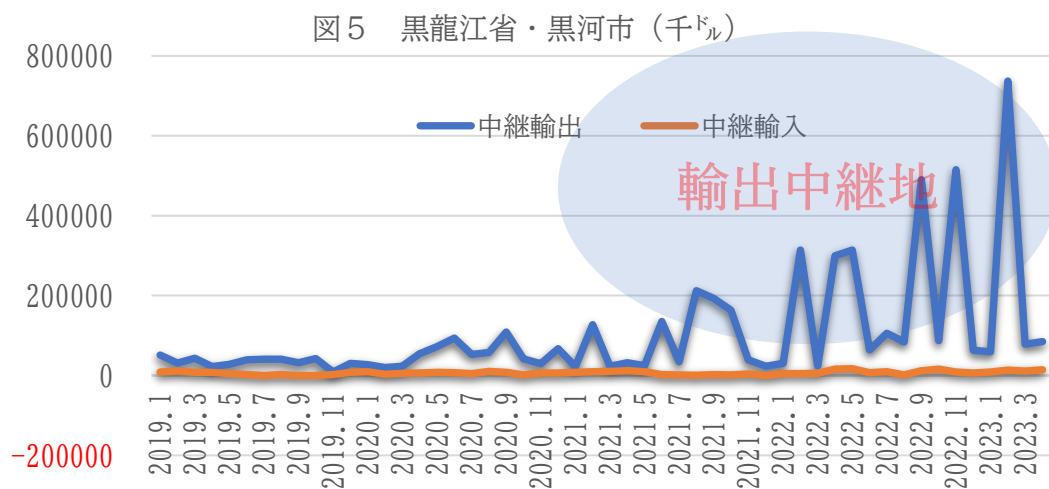
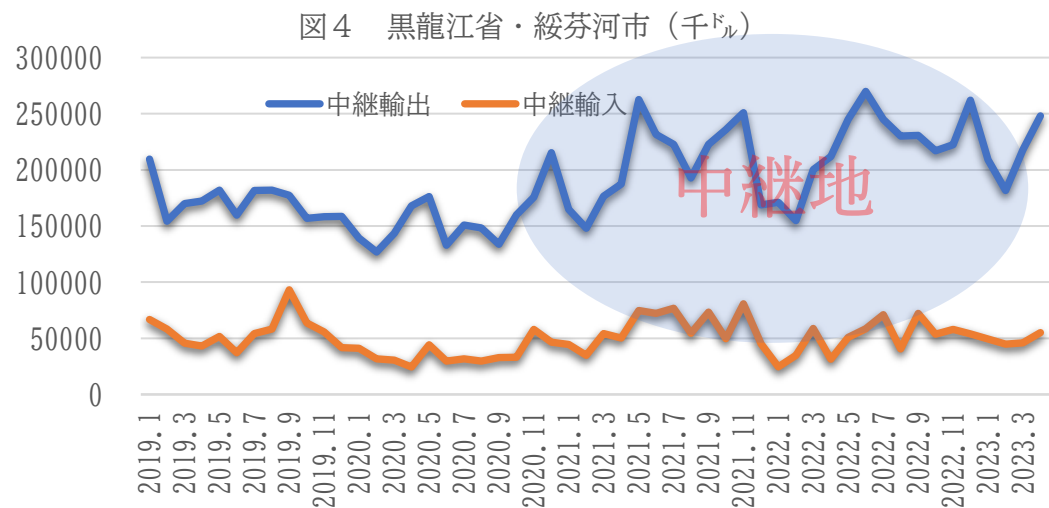
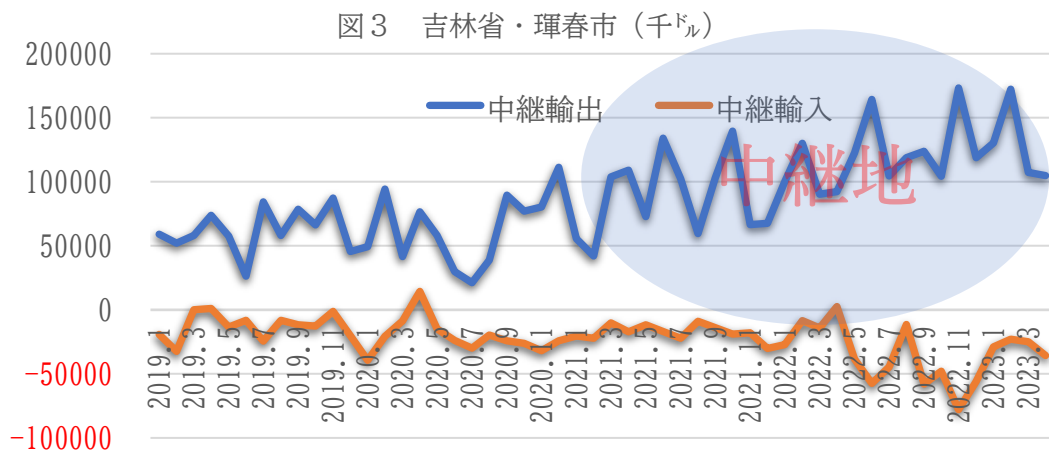
出所：分析結果をもとに作成

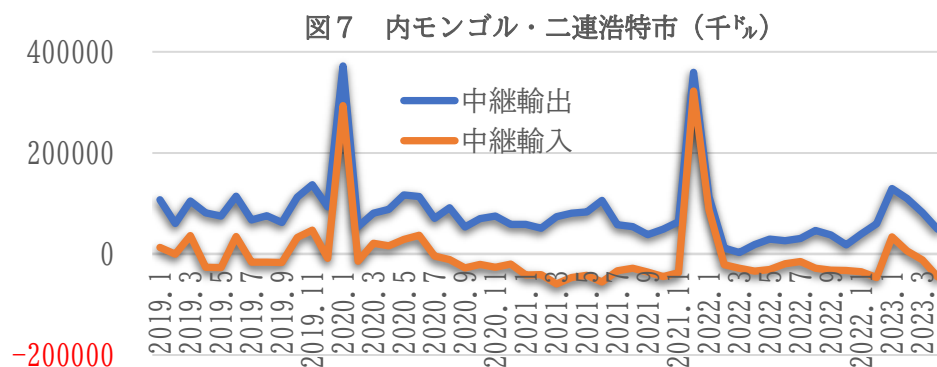
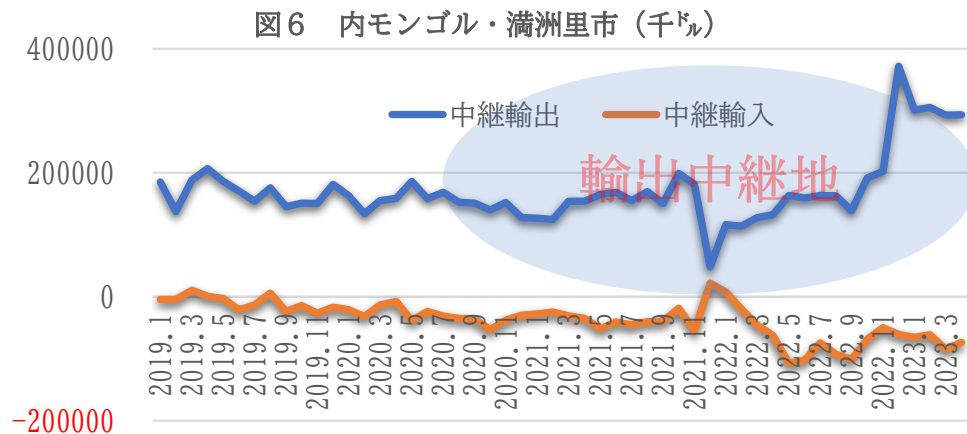
(2) 新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大期

2020年1月から2022年12月までを感染拡大期としてとらえ、それ以前の2019年とそれ以降の2023年4月までの輸出入中継額を計算し、それぞれの特徴について確認する（図2～7を参照）。

図2 遼寧省・丹東市（千ドル）







主に次の三つの特徴が確認された。まず、分析対象の6つの辺境都市はそれぞれ輸出中継地としての役割を果たしていた。その中でも丹東市、琿春市、綏芬河市、黒河市による輸出中継額が2020年5月以降に増加傾向にあることが明らかとなった。一方、内モンゴルの滿洲里市は、輸出中継地としての役割を果たしているものの、2022年9月までは目立った動きはなく、それ以降から輸出中継額が急増していることが確認された。

次に、輸入中継地としては、黒河市（2021年12月を除く）、綏芬河市が目立ち、稀に滿洲里市（2021年12月と2022年1月）と二連浩特市（2021年12月と2022年1月、2023年1月2月）でみられた。

最後に、辺境都市の輸出中継額にCOVID-19が与えた影響は、2020年5月頃を前後にその落ち込みがみられるものの、それ以降はむしろ中継地としての役割を拡大していることが確認された。特にロシアと国境を接する都市からの輸出でこの動きが顕著であった。

4.結びに代えて

本研究では、国境を跨ぐ地域開発に関する研究の一環として、貿易データによる分析から北東アジアにおける中国辺境都市の経済的役割を考察した。主な結果を整理すると次のようになる。

まず、中継輸出と関連して、黒龍江省の綏芬河市、黒河市と内モンゴルの満洲里市がそれぞれ中継地としての役割を果たしていることが確認され、中継輸入と関連して、黒龍江省、綏芬河市、黒河市による役割が確認された。このことは、ロシアと国境を接する辺境都市は、中国国内のその他地域との間に立って、貿易中継地としての役割を果たしているものとみられる。

次に、COVID-19 感染拡大期において、多くの国境ゲートが閉鎖され、人的交流だけではなく、モノの流れにも影響を与えたとみられるなか、月別分析結果からはその影響は一時的とみられ、辺境都市の経済的役割は弱まるところか、むしろ拡大している現象が見て取れた。特に黒龍江省の綏芬河市と黒河市で顕著であった。

こうした分析結果から、辺境都市は「国内—辺境都市—海外」といった概念モデルのように中国のその他地域と海外とにおける経済連携していることが明確となり、このことは、辺境都市は国境を「玄関口」として、その輸出入は単に現地の需要を満たしているのみならず、中国のその他内陸、そして周辺諸国の市場とも密接にリンクしていることが明らかとなった。

最後に、本研究は都市レベルでその経済的役割を分析したこと、COVID-19 による辺境都市への影響を月別データによる分析で明らかにしたことに意義があると考ええる。しかしながら、それぞれの辺境都市が隣接している国との「関係」や地政学的リスク要素などを考えると、現地調査など、より踏み込んだ分析が欠かせないと考ええる。これらについては今後の課題としたい。

参考文献

- 河合正弘編著 (2018) 『北東アジアの経済成長』, 日本評論社.
- 岡本信広 (2012) 『中国の地域経済 — 空間構造と相互依存』, 日本評論社.
- 安田知絵 (2016) 「中国の経済発展における中国東北地域の役割: GTI 関連諸国との貿易を中心に」, 日本経済大学大学院紀要, 第 4 巻, pp. 103-122.
- 安田知絵 (2020) 「中・モ・ロ経済回廊における中国東北地域の役割」, 経営行動研究年報, 第 29 巻, pp. 106-110.
- 安田知絵・羽田翔・陸 亦群 (2022) 「中国における輸出財高度化の決定要因分析, -東北三省の製造業を中心に-」 日本貿易学会研究論文, 第 11 号, pp. 43-59.
- 国发〔2015〕72 号《国务院关于支持沿边重点地区开发开放若干政策措施的意见》2016.1 月 7 日公布 (https://www.gov.cn/zhengce/content/2016-01/07/content_10561.htm) アクセス日: 2023 年 7 月 12 日.

データの出所

中国海関総署 (<http://www.customs.gov.cn/>) データアクセス日: 2023 年 6 月 30 日.